平成１１年１１月１９日
海洋科学技術センター
宇宙開発事業団

「ＨⅡロケット8号機」の第1段ロケットの調査について

海洋科学技術センター（理事長　平野拓也）及び宇宙開発事業団（理事長　内田勇夫）は、海洋科学技術センター所有の深海調査研究船「かいれい」を使用し、１１月２０日（土）から１１月２９日（月）までの１０日間、小笠原諸島北西約３８０キロの海域（図１）において、宇宙開発事業団の「ＨⅡロケット8号機」の第１段ロケットの調査を行います。

調査では、「かいれい」に装備された精密音響深度測定機（マルチナロービーム音響測深機）及び同船搭載の無人探査機「かいこう」曳航部（ランチャー）に装備された側方音響探査ソナー（サイドスキャンソナー）での海底調査を実施し、第１段ロケットが発見された場合には、「かいこう」ビークルでの目視観察、映像取得等を行います。また、宇宙開発事業団はそれらの映像等の資料を今後の原因究明作業に反映することとします。

調査予定（補足資料参照）
１１月１９日（金）三河港（愛知県）出港
１１月２０日（土）現場海域到着
：シービーム、サイドスキャンソナーによる海底落下物の調査状況により、「かいこう」での落下物の目視観察を行う。
１１月３０日（火）現場海域発
１２月　１日（水）海洋科学技術センター（横須賀）帰港

尚、調査の状況によりなんらかの注目すべき結果がえられた場合には、海洋科学技術センターのホームページにてお知らせ致します。

問い合わせ先
海洋科学技術センター
普及・広報課　他谷、池川
TEL　０４６８−６７−３８０６

宇宙開発事業団　　広報室　福室、高橋
TEL　０３−３４３８−６１０７

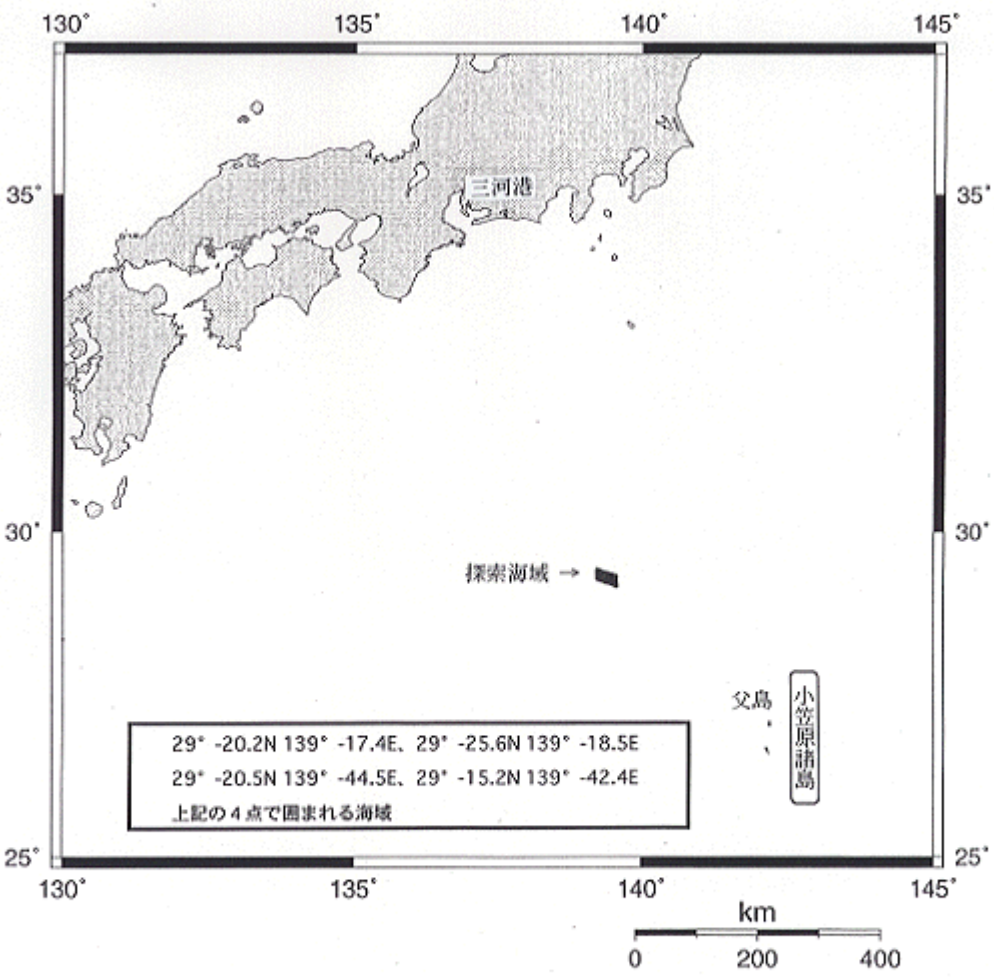
130°
135°
140°
145°
35°
30°
25°
三河港
探索海域 →
29° -20.2N 139° -17.4E、29° -25.6N 139° -18.5E
29° -20.5N 139° -44.5E、29° -15.2N 139° -42.4E
上記の４点で囲まれる海域
父島
小笠原諸島
km
0
200
400

図１　調査海域図

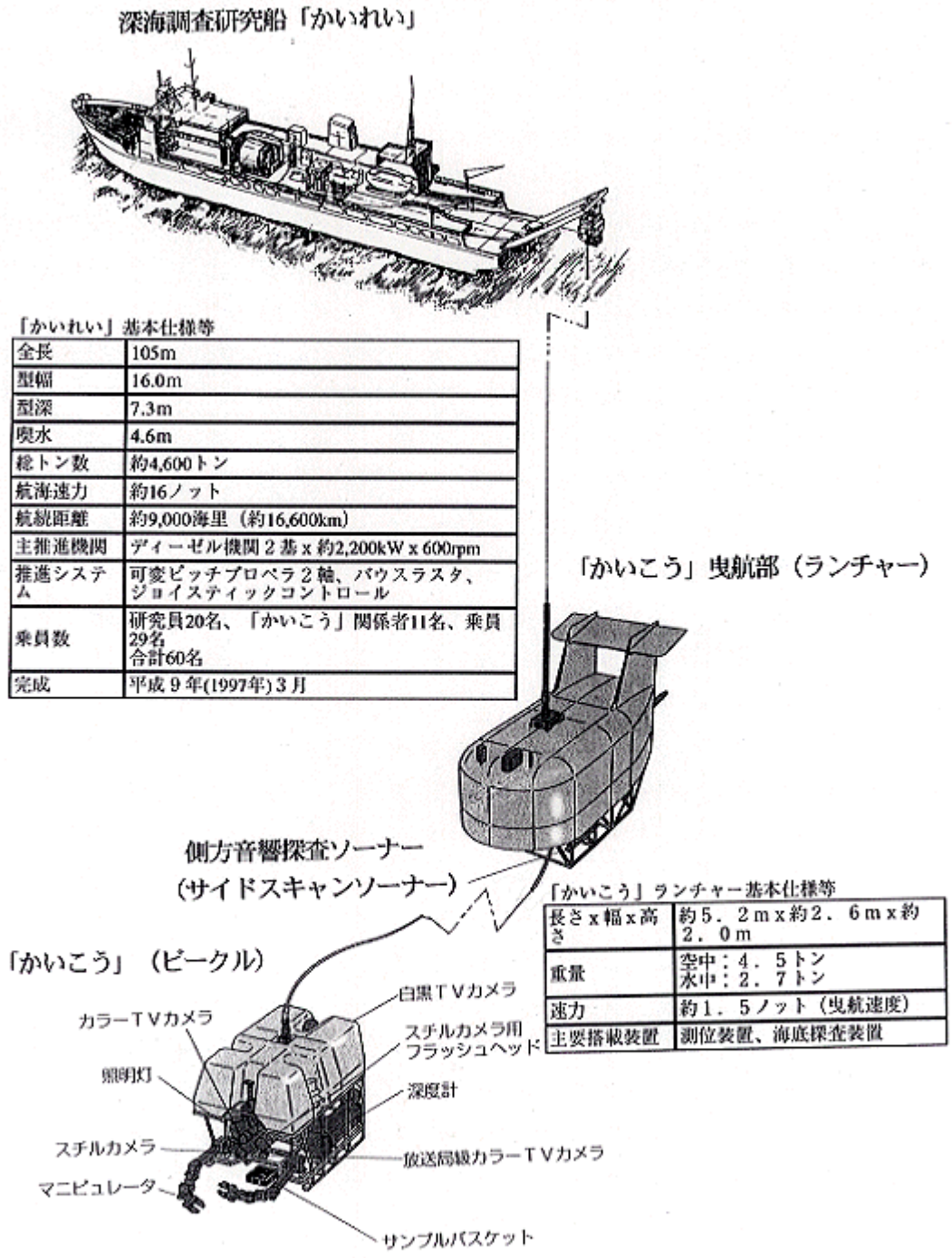

図２　深海調査研究船「かいれい」と無人探査機「かいこう」

（補足説明資料）

「ＨIIロケット8号機」第１段ロケット調査の概要

１．調査期間：１１月２０日（土）～１１月２９日（月）
（三河港出港：１１月１９日（金）、海洋科学技術センター（横須賀）帰港１２月１日（水））

２．調査海域等

：調査海域（29° -20.2′ N, 139° -17.4′ E）（29° -25.6′ N, 139° -18.5′ E）（29° -20.5′ N, 139° -44.5′ E）（29° -15.2′ N, 139° -42.4′ E）の４点を結ぶ海域（図１）。なお、現場海域での潮流等の海況データを参考に調査海域を変更する。
：落下推定地点（29° -20.4′ N, 139° -30.4′ E ）

３．使用船舶
：深海調査研究船「かいれい」（総トン数：4628GT、信号符合：JRZH）

４．調査手法（図２）
（１）事前調査（海底地形調査）
「かいれい」装備のマルチナロービーム音響測深機（シービーム2112）による海底地形調査を実施する。

（２）海底音響調査
海底地形調査の結果に基づき調査対象海域を絞り込んだうえで、無人探査機「かいこう」を「かいれい」で曳航し、ランチャーに搭載しているサイドスキャンソナーにより海底面の詳細な凹凸や、底質を観測し、海底人工物体の有無を調査する。

（３）無人探査機「かいこう」による目視観察
海底音響調査の結果、ＨⅡロケットの一部と思われる特異な反射、凹凸が確認された場合には「かいこう」をその地点に潜航させビークルに装備されているＴＶカメラにより目視観察及び撮影を行う。